

定性的に表わせることから、内的不安定ではなく、外力によって作られた波であることがわかる。近年の超長波についての解析は、定常成分の他に時間的変動をする成分があることを示している。冬季の資料にもとづく、Eliassen-Machenhauer, Deland, Deland-Lin 等の解析がその幾つかの例である。しかし、それらの解析から分る様に、変動部分は定常部分に比べて大きくないか、又は、振幅が大きいとしても、或る定常値の周囲を準周期的に変動している。このことから、超長波の定常場を形成する部分は、そのスケールに与えられた擾乱(変動部分)で揺られても安定であることを示している。

4. おわりに

前の2節で、超長波の成因について簡単に考察した。それらの因子をもとにして、実際の超長波の静的及び動的性質を正しく説明することは難しい問題である。特にこれまでの理論的手法で説明する際には、一般流、超長波、低気圧波の相互作用を考えなければならないので困難は大きい。これに対する有望な別の途は、水槽実験ないしは数値的に超長波を支配すると思われる因子を次々に加えて大気中のそれを再現してゆくことである。最近の大気大循環の数値実験の幾つかは、冬の定常場がどの様にして作られ、如何なる役割を大気の大循環で果しているかを示している。

参 考 文 献

- 1) Aihara, M. (1959): 気象集誌.
- 2) Bolin, B. (1961): Tellus.
- 3) Burger, A.P. (1962): J. atmos. Sci.
- 4) Charney, J.G. (1947): J. Met.
- 5) Charney, J.G. and A. Eliassen, (1949): Tellus
- 6) Deland, R.J. (1964): Tellus.
- 7) Deland, R.J. and Y-J. Lin, (1967): Month. Weath. Rev.
- 8) Döös, B. (1963): Tellus.
- 9) Eady, E.J. (1949): Tellus.
- 10) Eliassen, E. and B. Machenhauer (1965): Tellus.
- 11) Fjörtoft, R. (1950): Geofys. Publ.
- 12) Green, J.S.A. (1960): Q.J.R.M.S.
- 13) Hirota, I. (1968): 気象集誌.
- 14) Kasahara, A. and W. Washington, (1968): WMO/IUGG Symposium on NWP.
- 15) Kubota, S. and M. Iida (1954): Papers in Meteor. and Geophys.
- 16) Miles, J.W. (1964): Review of Geophys.
- 17) Murakami, T. (1967): 気象集誌.
- 18) Saltzman, B. (1966): Tellus.
- 19) Saltzman, B. (1963): J. atm. Sci.
- 20) Smagorinsky, J. (1953): Q.J.R.M.S.

「気象研究ノート」100号記念号原稿公募

「気象研究ノート」は学会員各位の御協力により、やがて100号をむかえようとしています。「気象研究ノート」は気象学や気象技術についての総合報告として、今までその役目を果たしてきたのですが、この100号だけは今までと趣をかえ、広く学会員から原稿を公募することにしました。

100号刊行について、編集委員会で意図したことは、各分野の研究者、技術者の回顧と抱負をあつめ、これを特集することです。客観的な評価、報告というよりはそれぞれの立場に応じた論評、感想といったものをできるだけ多くあつめたいというのが委員一同の一つのねらいで、今まであまり原稿をいただけなかった地方在住者からの投稿を特に希望するものです。

公 募 要 領

1. 原稿枚数：できるだけ多くの原稿を掲載したいの

で、原稿の長さは1編につき400字×5～7枚に制限します。すなわち9ポ活字、すり上りを1編につき2ページ以内とします。

2. 内容：戦後およそ20年間の回顧と抱負ということを一応のテーマとしましたが、必ずしもこれにこだわりません。自分を中心とした感想や希望を気軽な気持で自由に書いていただけたらと考えます。
3. 原稿メ切り：1969年2月15日、同年4月刊行予定。
4. 稿料：原稿料はこの号に限りすべて記念号刊行のための編集費に充当します。投稿者に対しては記念号1冊を無料配布して稿料にかえます。
5. 原稿送り先：東京都千代田区大手町1-7

気象庁予報部 根本順吉
(気象研究ノート編集委員会)